

平成30年度 がんばる県民共働グループ応援事業 一覧

	申請団体	事業内容
1	一般社団法人 SwitchSwitch (代表:阪野 真人)	<p>○里と人をつなぐ里山マルシェイベントの実施企画を通じた交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若狭町の里山では、獣害被害や放置林が増え、特産品である梅の収量は後継者不足等の課題から減少傾向にある。福井工大や立命館大学などの学生と地域の若者・女性が若狭町の魅力発信のイベント企画に参画してもらい、地域の活性化につなげる。 ①間伐材を活用したマルシェテントの作成 立命館大学の学生にはデザインの案を募るとともに、建築の専門家の設計・アドバイスのもとテントを作成する。 ②マルシェイベントの開催 間伐材テントを活用したイベントの計画。企画会議から学生に参加してもらい、地元住民と県外からの来訪者が交流するイベントを開催する。 ③里の恵みに感謝する食事会と上映会 三方五湖で水揚げされるコイやフナを大学生の意見を聞きながら、若者向けの料理にアレンジし、地元産の食材をより多くの方に食べてもらう手法を考える。
2	うるしの里中道アート実行委員会 (代表:青山 英彦)	<p>○地域イベントの企画実施を通じた大学生等の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源とアート作品の融合によるイベント(中道アート)において、企画段階から福井工大や京都大学の学生に参画してもらい地区内の住民、若者、地域おこし協力隊とワークショップを開き交流を広げる。 ・地域の精神的支柱である、漆器神社・敷山神社の参道から本殿までを駆け上がるイベント「かわた福男福女」を新たに開催し、県内外からの参加者を呼びこむことで、交流人口の増加と地域資源のPRを図る。
3	吉江あおい会 (代表:塚田 耕治)	<p>○二葉葵を通じた国体参加者等との交流「葵の想い」プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が親しみを覚える「二葉葵」の栽培を通じて、地域の歴史や環境問題を学び伝えて地域活性化と情報発信を図る。 ①「葵の想い」写真展の開催 立待小学校児童との共同栽培の様子をパネル展で振り返り、地域内外の人に二葉葵により親しみを持ってもらおう。 ②二葉葵を使用したしおりの政策 福井国体やたちまち近松まつりに配布するしおりを児童とともに制作し、「二葉葵」の町として全国にPRする。 ③東京経済大学創立120周年記念「二葉葵」キャンパス植栽事業 校章が「二葉葵」である東京経済大学キャンパス内に植栽し、大学関係者との交流を通じて首都圏における地域のPRを行う。
4	特定非営利活動法人 今庄旅籠塾 (代表:高嶋 秀夫)	<p>○高校生や大学生と共同で行う町家改修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今庄宿内空き家を活用し、建築を学ぶ高校生や学生が、建築士や大工および左官職人の指導のもと実践的な技術を学ぶ機会を提供する。 ・地域のまちづくり団体との交流を通じて、次世代の若者が伝統的建築物の保存やまちづくり意義を理解してもらおうとともに、伝統的技術を受け継いでもらう。
5	阪谷スターランド振興委員会 (代表:野阪 弦司)	<p>○福井の魅力を知る旅・地域交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外の農業系学生に、2泊3日(8月)で県内に来てもらい、福井の魅力ある観光地や産業を知ってもらおう。 ・「白山ワイナリー」や「阪谷スターランド」などでの体験と地域住民との意見交換を通じ、学生の将来的な福井への就業・就農を促す。
6	美浜町生産者連絡会 (代表:宮下 いずみ)	<p>○生産地体験研修受入事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都会の若者を5日間受け入れ、美浜町で漁業、農業、酪農、獣害対策等を体験してもらう。 ・農業や漁業そのものの体験にとどめず、加工・販売へとつなげる現場を体験してもらい、商品販売への工夫や提案などで、生産者との交流を図る。